

<出題意図 令和7年度一般選抜入試前期日程：地域科学部小論文>

大問Ⅰ 出題意図

問1. 著者は、学童保育指導員に求められるあり方として、指導員と子どもたちが「ともに居続けること」について繰り返し述べている。著者の中心的な考えを読み取り、適切な箇所を抜き出してまとめられるかどうかを問うている。

問2. 学童保育の問題は、日本全体や地域社会における大きな社会課題の一つである。著者は、学童保育においては、子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整えることが求められると述べており、特に「生活の場」としての学童保育の重要性を強調している。著者は、学童保育における教育的機能は無視できないとしつつ、教育的機能が発揮されるのは、あくまでも子どもとのかかわりによる「生活の場」で／から生じる「ケア」が前提であるにとらえている。このような著者の考えを読み取り、問1の内容も踏まえながら、学童保育とはどのような場であるべきか自分の考えを論理的に表現できているかを問うている。

大問Ⅱ 出題意図

問1. ベックが述べた、現代社会をリスク社会たらしめる新たな危険とはなにか、本文の記述から正確に読み取り、整理することができるかを問うている。本文中の特定の箇所に明示されていないため、記述から読み取ってまとめることが要求される。

問2. 「過去・現在と未来とのあいだの因果的連続性への了解」つまり〈結果としての未来〉観について、本文の記述から正確に読み取り、整理することができるかを問うている。本文中の特定の箇所に明示されていないため、記述から読み取ってまとめることが要求される。

問3. 統計や確率によって、起こりうる未来の危険を計量化して提示することで不安や恐怖を増大させているリスク社会の特徴を本文から読み取り、このようなリスク・コンシャスな主体を作り出すリスクの具体例を挙げ、それとどのように付き合うべきか、自身の論を展開する能力を問うている。